

2022/11/14 (月)

朝の礼拝

聖書 申命記 24章 9-22節 (旧約聖書319頁)

畑で穀物を刈り入れるとき、一束畑に忘れても、取りに戻ってはならない。それは寄留者、孤児、寡婦のものとしなさい。こうしてあなたの手の業すべてについて、あなたの神、主はあなたを祝福される。オリーブの実を打ち落とすときは、後で枝をくまなく捜してはならない。それは寄留者、孤児、寡婦のものとしなさい。ぶどうの取り入れをするときは、後で摘み尽くしてはならない。それは寄留者、孤児、寡婦のものとしなさい。あなたは、エジプトの国で奴隷であったことを思い起こしなさい。わたしはそれゆえ、あなたにこのことを行うように命じるのである。

何のため

皆さんは遊牧民という人々をご存じでしょうか。土地や畑、家を持たず、羊や山羊を放牧しながら旅をする人々です。聖書では神様が最初に選ばれた人たちです。しかし彼らは渴きと飢えに襲われエジプトに逃れ、奴隷となってしまいます。

やがてエジプトを脱出し、神様が約束してくれた土地カナン、現在のパレスチナに住むことになりました。自然に恵まれ大麦や小麦、オリーブやぶどうの実を収穫し、王様を立て国もでき豊かな民族となりました。しかし貧富の差が広がりました。

今日の聖書はそんな豊かな時代に、土地や財産を持たず着の身着のままの寄留者、親に棄てられ身寄りのない子ども、病や身体の不自由なひとり暮らしのお年寄り、自分たちがそうであったことを思い起こし、彼らを忘れないようにしなさいと伝えてます。

豊かなこと、知識や能力があること、そして互いに競争できることは恵まれたことです。しかしそれが目的になると分裂して、共に滅んでしまいます。大切なのはそれを何のために用いるか、何のために分かち合うのかです。

(しばらく黙想しましょう)

恵みに溢れる主よ、あなたが季節に従い、大地の産物を豊かに与えてくださることを感謝します。どうか知恵と力を与え、わたしたちがこれらの賜物を正しく用い、世界のすべての人の必要を満たし、あなたの栄光をあらわすことができますように、今日一日もすべてをあなたに委ね、互いに慰め励まし、よき学びのうちに過ごさせてください。主イエス・キリストによってお願いいたします。アーメン